

「安全報告書 2018」を2018年9月13日（木）から 公開しました！

2017年度に実施した輸送の安全確保に関する取組みを紹介！

東京メトロ（本社：東京都台東区 社長：山村 明義）は、2017年度に実施しました輸送の安全確保に関する取組みをお客様や関係者の方々に広くご理解いただくため、「安全報告書 2018」を2018年9月13日（木）から公開しました。

本年の報告書には、東京メトロの安全方針や安全管理の方法に加え、ホームの安全対策、事故発生時の非常体制の確立や防災対策、人材育成に関する行事や研修など、東京メトロの安全に関する取組みを幅広く紹介しています。

「安全報告書 2018」は、当社ホームページ（<http://www.tokyometro.jp/>）にて e-book または PDF 形式でご覧いただけるほか、同ホームページにてお客様からの冊子発送の申込みを受け付けています。

報告書の概要は、下記のとおりです。

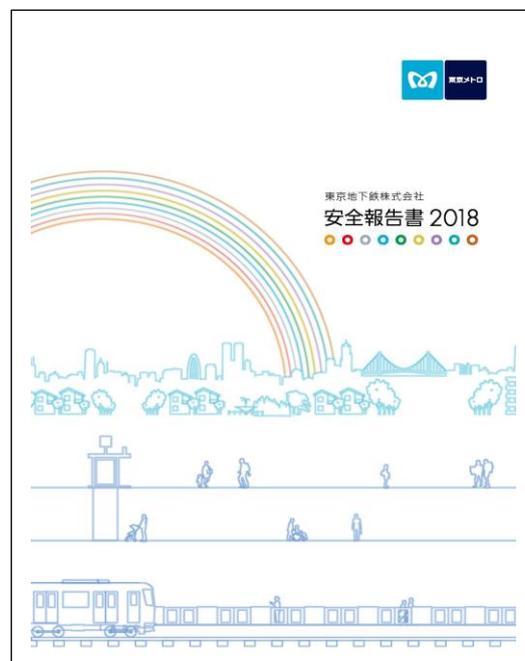
記

1 主な内容

- (1) トップメッセージ
- (2) 東京メトロの取組みについて
 - ・安全方針
 - ・安全管理体制
 - ・安全設備・輸送改善
 - ・危機管理
 - ・人材育成
 - ・鉄道事故等への対応
 - ・安全性向上への取組

2 形 式

A4判 オールカラー 28 ページ



以 上

安全設備・輸送改善

様々な設備投資や駅・ホームでの安全対策によって安全水準の維持・サービス向上に取り組んでいます。

駅・ホームの安全対策



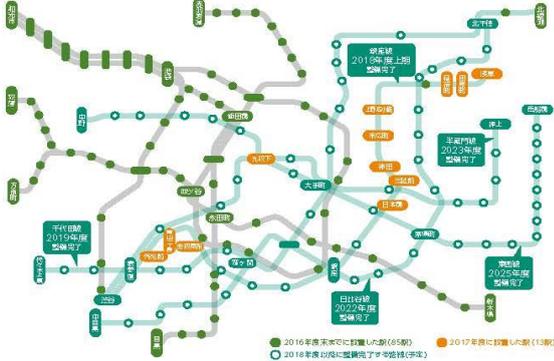
ホームドア

ホームからのお客様の転落、線路内への侵入、列車との接触等を防ぎます。また、車両のドア位置及び幅が異なる列車が運行される東西線へは大開口ホームドアを設置していきます。



整備率 **55%**
全179駅中 **98**駅整備済

ホームドア設置状況



ホーム線端警告ブロック

視覚障害者の方が線路のある方向を認識しやすいように、ホーム内側方向に内方線があります。



可動ステップ

ホームと車両の隙間を減らす可動ステップの設置を推進しています。ステップは、普段ホームの下に格納され、車両ドア・ホームドアの開閉操作に連動します。



注意喚起シート

ホーム線端部の歩行が危険であることをお客様にお知らせするとともに、駅係員や車掌の視認性向上を目的として設置しています。



転落検知マット

線路内への転落を検知した場合、非常停止回路と連動して列車を停止させます。



転落防止ゴムの設置

ホームと車両の隙間を減らすことで線路内への転落を防ぎます。



「見守る目」の強化

目の不自由なお客様のご利用が特に多い駅において、お客様のご利用情報の共有を迅速に行うためハンズフリー型インカムを導入しています。

また、全駅社員がサービス助手士®の取得に取り組んでいます。

※サービス助手士：お身体の不自由なお客様に安心してご利用いただけるような接客やお手伝いのできるよう、公益財団法人日本ケアフィット共育機構が認定する研修を受講した者として考えられる資格。



TOPICS

法政大学生によるボランティア活動

断面構駅において、法政大学と連携し、「見守る目」を強化することを目的としたボランティア活動を実施しています。



防災対策

災害の被害拡大防止や早期復旧のための仕組みを整備しています。

震災対策

地震発生時には、東京メトロの沿線6箇所に設置した地震計から、総合指令所の情報表示装置に地震警報が表示され、直ちに地震の大きさに応じた運転規制を行います。あわせて気象庁から発信される緊急地震速報を活用した早期地震警報システムの運用を行っています。



帰宅困難者対策

地震発生時には、お客様を駅構内の安全な場所にご案内し、一時的にお待ちいただくこととしており、対応マニュアルを整備しています。また、備蓄品として飲料水やアルミブランケット、扇風機、携帯トイレ等を配備しています。



早期運行再開に向けた耐震補強

首都直下型地震等の発生時における早期運行再開を実現するため、従来施工不要と判定されていた高架橋の柱及び石積み擁壁の耐震補強工事を実施しています。



お客様の情報収集

大規模災害が発生した際に、東京メトロが管理する全駅に設置されている改札口ディスプレイにNHKが放送する非常災害時緊急放送を放映し、災害に関する情報を迅速にお伝えすることにより、お客様の情報収集にご活用いただけるよう運用しています。また、全線で携帯電話を利用いただけるよう環境整備を行い、事故・災害発生時などの非常時に列車内やトンネル内でもお客様による情報収集が可能となっています。



浸水・強風対策

近年の都市部に頻発する大雨に対応するため、より精度の高い情報を短時間で入手する気象情報オンラインシステムを導入しています。風の強い海岸部や橋りょうには風速計を設置し、風速に応じた運転規制を行います。また、大規模浸水対策については、出入口への対策に注力するほか、換気口への新型浸水防止扉の設置・更新や折口トンネルの出入口部分)における対策の強化等をさらに進めています。



●浸水防止対策

- 駅出入口の止水扉
- 浸水防止扉
- 防水ゲート
- 換気表示
- 浸水扉
- 完全防水型の出入口

火災対策

2004年に改正された火災対策基準に基づき、火災対策設備等の整備を進め、整備対象である52駅全ての駅での整備が完了しています。

鉄道テロ対策

テロ行為や駅構内の犯罪に備えて、警戒・警備を実施しています。全駅にセキュリティカメラを設置し、監視体制の強化を図るなど、様々な警備体制の強化を図っています。

